

## 文化ファッション研究機構 活動報告

タイトル:「アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野」  
(文化庁委託事業)

期間:2016年6月1日から2017年3月31日まで

研究者:近藤尚子、田中直人、金井光代、ジュリア・ナシメント(和装文化研究所)

### 活動内容:

和装文化研究所では、文化庁の委託事業である「アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野」を進めた。本事業は国内のデザイン分野資料の所蔵機関を繋ぐネットワークを構築し、所蔵資料の情報を収集・整理しデジタルアーカイブ化することによって、利活用のための基盤を形成することを目的としている。デザインを専門とするミュージアムが存在しない日本において、これら関連資料は散逸や消失の危機にさらされており、また、世界規模の文化振興への貢献が期待されているにもかかわらず、所在情報の把握が難しく活用が困難な状況にある。このような状況に鑑み、本事業では、ファッション、プロダクト、グラフィックの3分野においてそれぞれ所蔵施設間のネットワークを構築し、集められた情報を集約して、国内のデザイン資料の横断的な利活用の促進と、デジタルアーカイブ化の普及啓発に取り組んでいる\*。

ファッション分野を担う和装文化研究所では、保存や活用に関する知識を有し、いくつかの施設とのネットワーク構築がなされている「和装」を、調査・研究の軸に据えた。改めて確認するまでもなく、高度な技術をもって製作された和装資料は、着用という本来的な目的の他に鑑賞対象としても根強い人気があり、国内の博物館・美術館における所蔵数も少なくない。また、その伝統的な形状や意匠、製作技法は世界的にも高く評価され、様々な地域で模倣、応用されてきた。つまるところ和装は、我が国のファッション・デザインを語る上で欠くべからざる構成要素であるとともに、国内外に向けて継続して発信されるべき、貴重なコンテンツであるといえる。

こうした和装資料を含むその他多くの服飾分野資料の横断的な利活用を促進するため、本事業では1年を通じて所蔵施設を訪問し、資料管理者とのネットワーク構築を進めてきた。そして各施設のデータベース運営に関わる基礎的な調査をおこない、横断化に向けた課題について検討した。またこれと同時に、これら専門施設の外にも貴重な資料が数多く存在する事実を重く受け止め、寺社をふくむ個人管理の資料にも目を向け、その所在確認と訪問調査、そして調

査結果のデータ化をおこなってきた。

なお、年度末に次年度事業の公募がおこなわれ、平成 27、28 年度に続いて 29 年度も同事業を受託することとなった。2 年間の事業成果を基に発展させるべき 3 年目の事業を、新たな活動を加えつつ進めてゆく予定である。

※プロダクト・デザイン分野は武蔵野美術大学、グラフィック・デザイン分野は京都工芸繊維大学が、それぞれ取り組んでおり、3 分野合同の連絡会議・打合せを適宜開催することにより、3 者が連携をとっている。